
「胎便性腹膜炎の胎児期経過ならびに妊娠経過の出生後予後への影響に関する後方視的検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2009年4月1日から2024年10月31日の期間に埼玉医科大学総合医療センターで「胎便性腹膜炎」と診断され、入院・手術を実施した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

胎便性腹膜炎は、胎児期に消化管に穴があくことで胎便が胎児のお腹の中に漏出して生じる腹膜炎です。胎便性腹膜炎ではさまざまな病型を示します。さまざまな病型に分かれる原因として、消化管穿孔（腸に穴が開く）の発症時期や穿孔部の経過、出生までの経過が影響している可能性を考えております。

当院で診察した胎便性腹膜炎の患者様の胎児期の超音波検査、周産期の背景や生まれてからの経過、手術の所見と術後の経過、病理学的な所見、採血による栄養状態の評価や外来受診時における発達・発育状況の評価することにより、胎便性腹膜炎における適切な分娩方法や時期の評価、ならびに今後生まれてくる胎便性腹膜炎の患者様の予後の改善への貢献を目的としております。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026年3月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2025年1月9日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる情報について

1. 情報の内容

胎児の超音波検査所見、胎児心拍モニター所見、母体の情報、胎児MRI所見、分娩経過、出生後経過、血液検査所見、身体所見、各種培養検査所見、手術の有無、手術所見、手術合併症、術後経過、病理組織学的検査所見、外来での身体的・精神的発達の状況等。

患者さんの氏名など、本人を特定出来る一切の個人情報調査対象ではなく、個人情報は保守

されます。

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターにおいて、研究責任者である牟田 裕紀が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 情報の取得方法

胎便性腹膜炎と診断された患者さんの胎児期並びに出生後の検査データおよび診療記録等を用います。

3. 情報を利用する者（研究実施機関）

- ・埼玉医科大学総合医療センター 肝胆膵外科・小児外科 牟田 裕紀（研究代表者）
- ・埼玉医科大学総合医療センター 肝胆膵外科・小児外科 小高 明雄
- ・埼玉医科大学総合医療センター 肝胆膵外科・小児外科 井上 成一郎
- ・埼玉医科大学総合医療センター 肝胆膵外科・小児外科 竹内 優太
- ・埼玉医科大学総合医療センター 肝胆膵外科・小児外科 林 泰輔

4. 情報の管理責任者

- ・埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮 好文

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

連絡先

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981 番地
埼玉医科大学総合医療センター
肝胆膵外科・小児外科 助教 牟田 裕紀
TEL：049-228-3620（直通）（平日 9 時～17 時）

○研究課題名：胎便性腹膜炎の胎児期経過ならびに妊娠経過の出生後予後への影響に関する後方視的検討

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター 肝胆膵外科・小児外科 牟田 裕紀